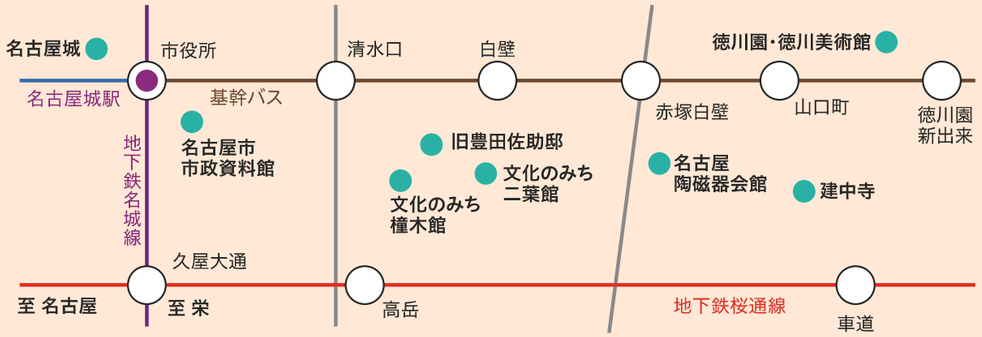
文化のみち

名古屋城から徳川園に至るエリアには江戸から明治、大正へと続く名古屋の近代化の歩みを伝える貴重な歴史遺産が残されており、『文化のみち』と呼ばれています



徳川園

国登録文化財

庭園は有料



江戸時代には尾張藩2代藩主徳川光友公の隠居所や三家老の下屋敷があり、徳川美術館・名古屋市蓬左文庫が隣接。

開園時間｜9:30 ～ 17:30(入園17:00まで)
休 園 日｜月曜(休日のときは翌平日)、年末年始(12/29 ～ 1/1)
問　　合｜TEL 052-935-8988

名古屋陶磁器会館

国登録文化財

無料



昭和7(1932)年、名古屋陶磁器貿易商工同業組合事務所として建築された。タイル壁、半円窓などが特徴的なドイツ表現主義を彷彿とさせる建築。

開園時間｜10:00 ～ 17:00(入館16:30まで)
休 園 日｜土曜、日曜、休日、年末年始(12/29 ～ 1/4)
問　　合｜TEL 052-935-7841

文化のみち二葉館

国登録文化財

有料



日本の女優第1号として名をはせた川上貞奴が電力王と称された福沢桃介と共に大正時代に居住した和洋折衷の邸宅。郷土ゆかりの文学も紹介。

開園時間｜10:00 ～ 17:00
休 園 日｜月曜(休日のときは翌平日)、年末年始(12/29 ～ 1/3)
問　　合｜TEL 052-936-3836

旧豊田佐助邸

名古屋市認定地域建造物資産

無料



兄の豊田佐吉(発明家・実業家)を支えた実業家、豊田佐助の邸宅。大正12(1923)年建設の和館と、それ以前に建設の洋館で構成。

開園時間｜10:00 ～ 15:30
休 園 日｜月曜(休日のときは翌平日)、年末年始(12/29 ～ 1/3)
問　　合｜TEL 052-678-2220(公財)名古屋まちづくり公社

文化のみち檀木館

名古屋市指定文化財

有料



輸出陶磁器商であった井元為三郎が大正末期から昭和初期にかけて建てた邸宅。洋館、和館、東西2棟からなる蔵、茶室、庭園で構成。

開園時間｜10:00 ～ 17:00
休 園 日｜月曜(休日のときは翌平日)、年末年始(12/29 ～ 1/3)
問　　合｜TEL 052-939-2850

名古屋市市政資料館

国重要文化財

無料



大正11(1922)年創建の旧名古屋控訴院地方裁判所区裁判所庁舎で、ネオ・バロック様式を基調とした現存する最古の控訴院建築。

開園時間｜9:00 ～ 17:00
休 園 日｜月曜(休日のときは翌平日)、第3木曜(休日のときは第4木曜)、年末年始(12/29 ～ 1/3)
問　　合｜TEL 052-953-0051

名古屋城

国重要文化財・国登録文化財

有料



慶長15(1610)年、徳川家康公が尾張藩初代藩主となる9男の義直公の居城として築城を開始。

開園時間｜9:00 ～ 16:30 (閉門17:00)
※本丸御殿及び西の丸御蔵城宝館への入場は16:00まで
休 園 日｜12月29日～ 31日、1月1日※催事により変更あり
問　　合｜TEL 052-231-1700

「文化のみち」リーフレット

ここに紹介した施設以外にもたくさんの素敵な建物があります。ご覧ください。
https://www.city.nagoya.jp/kankobunkakoryu/page/0000011525.html

NPO法人東区文化のみち ガイドボランティアの会

文化のみちの施設での定時ガイドや予約ガイドを行い、「文化のみち」の魅力を紹介しています。
https://higashibgv.com/

建中寺

尾張徳川家菩提寺　徳興山

建中寺は、慶安3(1650)年に逝去した尾張藩初代藩主徳川義直公(徳川家康公の9男)の菩提を弔うため、慶安4(1651)年に2代藩主光友公により建立された浄土宗の寺です。以後、尾張藩主は建中寺に葬られ、位牌も御霊屋に納められており、毎日、御回向が行われています。現在も約1万坪の敷地を誇る広い境内ですが、創建当時は5倍の約5万坪の広さがありました。

天明5(1785)年の大火により、本堂、鐘楼などが焼失しましたが、天明7(1787)年に創建当時のかたちに再建されました。

江戸時代には無本寺(別格本山)として塔頭寺院と末寺がありましたが、大政奉還・明治維新により、尾張藩は廃藩置県により愛知県の一部となり、建中寺は明治5(1872)年に知恩院の末寺となりました。

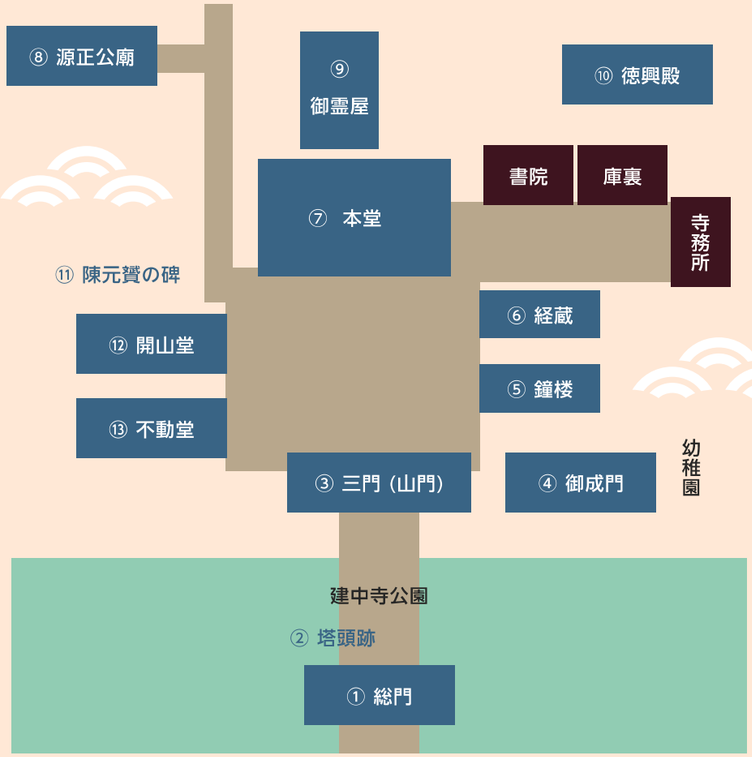
建中寺の多くの建物が、名古屋市指定文化財、国登録文化財、国重要文化財などの指定を受けています。



制作：名古屋市東区役所、名古屋葵ロータリークラブ
協力：NPO 法人東区文化のみちガイドボランティアの会　令和６年９月

建中寺の建造物紹介

建造物配置図



1 総門（そうもん）

名古屋市指定文化財



慶安4（1651）年の建立で、創建当時の建築物。総欅（けやき）造り三間薬医門の建築様式で、本瓦葺き。現在は建中寺公園の南辺に当たるが、戦後の区画整理以前は総門が境内の南端であり、両脇に築地塀が取り付けられている。

2 塔頭（たっちゅう）跡

塔頭とは大寺院の境内にある寺院で、総門と三門の間に7つの塔頭があったが、宗心院と誓安院のみ名古屋市東区役所の北側に現存している。

宗心院（成瀬隼人正正虎）　甲龍院（志水甲斐守忠政）　誓安院（渡辺右馬允守綱）　全順院（寺尾土佐守直龍）
正信院（竹腰山城守正信）　光寿院（間宮大隈守正輝）　養寿院（安部河内守正興）



3 三門・山門（さんもん）

名古屋市指定文化財

慶安4（1651）年の建立で、創建当時の建築物。総檜（ひのき）造りの三間重層門の建築様式で、本瓦葺き。
「三門」は空門・無相門・無願門の三解脱門の意味を持つ。徳興山という山号に因み、「山門」とも表記する。2階には、釈迦牟尼仏を中心として十六羅漢の像が祀られており、天明5（1785）年の大火の際、「大谷惣右衛門」が防ぎ、三門が焼け残ったとの墨書きがある。

4 御成門（おなりもん）

名古屋市指定文化財

正徳4（1714）年に造営された尾張藩5代藩主五郎太公の霊廟の門を昭和初期に移築したもの。唐破風造りの四脚門で平唐門（ひらからもん）。



5 鐘楼（しょうろう）

名古屋市指定文化財

天明5（1785）年の大火で焼失し、天明7（1787）年に再建。入母屋造り本瓦葺きで台形上の袴腰付きの建築様式。
500貫（1,923kg）の梵鐘が吊るされており、徳川家康公から家綱公まで4代の将軍に仕えた儒学者の林道春（羅山）の銘が刻まれている。

6 経蔵（きょうぞう）

名古屋市指定文化財



棟札によると文政11（1828）年に創建。外部全体に木地を下地に薄く漆喰を塗る総塗籠造り。内部には、総欅（けやき）造りで八角平面の内輪蔵があり、黄檗版大蔵経（一切経）5,800巻が納められている。輪蔵を回すと経典全てを読誦（どくじゅ）したとする習慣があった。
輪蔵の周りには、釈迦牟尼仏を中心として、大蔵経を持ってそれぞれの宗旨を立てたという意味で13宗の祖師像を安置している。

7 本堂（ほんどう）

国重要文化財



慶安5（1652）年、尾張藩初代藩主義直公（源敬公）の御霊屋（大殿）として創建。天明5（1785）年の大火で焼失し、天明7（1787）年に再建。入母屋造り本瓦葺きで、名古屋市内の木造建築物としては最大のものである。本堂内部の欄間の彫刻は非常に華やかな彩色がされている。本尊の阿弥陀如来は、開山廓呑上人が結城弘経寺から招来した止利仏師の作と伝えられる。

8 源正公廟（げんしょうこうびょう）

名古屋市指定文化財

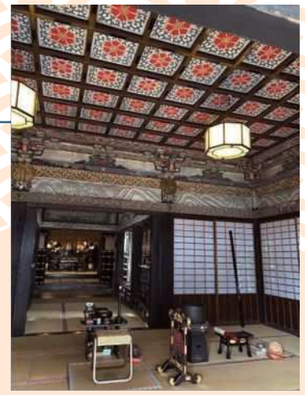


建中寺開祖の尾張藩2代藩主光友公（源正公）を祀った御廟（墓）であり、元禄14（1701）年からの廟門と墓石が築地塀で囲まれ、正面に唐門がある。建中寺には2～13代までの尾張藩主の墓が残っていたが、戦後の区画整理事業等でなくなり、建中寺の境内に残された唯一の藩主の墓所である。

9 御霊屋（ごれいや）

国重要文化財

尾張徳川家の御霊廟。御霊屋は先祖の霊を祭る建物の事であり、歴代尾張藩主の位牌を安置している。一般には「おたまや」と呼ばれるが、建中寺では「ごれいや」と呼んでいる。寛政10（1798）年、尾張藩初代藩主義直公（源敬公）の150年回忌を記念して建立された。唐門から始まって、経殿（きょうでん）、渡殿（わたりでん）、本殿（ほんでん）と続く仏教式権現造り。本殿内に尾張徳川家代々の藩主の位牌が安置されている。





10 徳興殿（とっこうでん）

国登録文化財

明治29（1896）年に名古屋商業会議所（現在の商工会議所）の本館として建築されたが、昭和9（1934）年に建中寺に移築。入母屋造り総二階建て。500人を収容できる大広間をはじめ大小10の部屋があり、大法要、講習会等に活用されている。

11 陳元贇（ちんげんぴん）の碑

陳元贇（1587 ～ 1671年）は、元和5（1619）年に来日した中国明の文人。詩・建築・拳法・陶芸・書道・茶道・菓子など多芸博識であり、寛永11（1634）年に尾張藩初代藩主義直公に江戸で拝謁し、その後、義直公に仕え、定光寺にある義直公の儒教式藩祖廟を設計したと言われている。石碑は大正2（1913）年に尾張徳川家19代当主義親公が恩人顕彰のために建立した。
死後、建中寺に葬られたが、戦後、墓石は平和公園の建中寺墓地に移転されている。現在は、三門の隣に「陳元贇墓所」の石碑がある。





12 開山堂（かいざんどう）

名古屋市指定文化財

棟札によると、天明5（1785）年の大火以前には存在せず、天明6（1786）年に名古屋城の廃材を利用して建立。大工は斎谷小一郎藤原長虎とされている。寄せ棟造り桟瓦（さんがわら）葺き総欅（けやき）造りで、本尊の阿弥陀如来を中心として、開山上人・中興上人の木像を安置し、代々の住職の位牌が祀られている。



13 不動堂（ふどうどう）



昭和44年（1969）の再建。本尊の不動明王は江戸時代から尾張徳川家戦勝祈願の秘仏として伝えられてきたもの。厄除け、開運、家内安全、交通安全、病即消滅、商売繁盛など霊験あらたかで、地域の信仰を集めている。